

## 第1学年1・2組 芸術科音楽I 学習指導案

令和7年10月20日（月）第5校時  
場 所 5F音楽室  
生徒数 29名  
指導者 鈴木 祐亮

### 1 題材名 「聴き手に伝わるギター二重奏をしよう」

### 2 題材について

#### (1) 生徒の実態

学習に対して不安と苦手意識をもっている。何のために学ぶのか、というメリットを伝えてスモールステップで指導していくことが必要である。具体的には、表現活動を通して自己表現力を、鑑賞活動を通して他者受容力を身に付けることであり、それらが良好な人間関係の構築や面接試験・プレゼンテーションなど将来的に必要な力であると伝えている。また、常に「絶対大丈夫」と励ましつつ的確な指導をし、信頼関係を築いて安心させることで学習課題の解決を目指している。

音楽が好きな生徒は多いが、演奏より鑑賞を好む生徒が多い。その要因を調査したところ、人前で演奏することに自信がもてない、楽器の操作が難しい、音楽を聴くことで気持ちの安定を図るといったことであった。それでも1学期には歌唱の学習を進める中で、音楽理論の要素を入れて指導すると、知識をもつことで歌唱に対して安心できたり、休み時間に自由に楽器に触れさせることで器楽に興味を抱いたりする生徒が増えてきている。これからは、音楽的な知識・技能を向上させて演奏経験を積むことで、自分の演奏に自信がもてるようになると思われる。さらには、音で表現をする(伝える)ことの楽しさを味わうことができれば、演奏を好きになることに繋がると考えている。

#### (2) 題材について

本題材は、学習指導要領 音楽科 解説 A表現 (2)器楽ア, イ(イ)(ウ), ウに則していく。本題材では、目には見えない「音」を手段として人に伝わる演奏をするために、ギターの演奏を通して、演奏形態によって楽曲の印象が変わること、奏法によって音色が変わること、メロディーと伴奏という役割があることについての理解を深めていく。そのために、パート別に集まってよい演奏をするための意見を出し合った後、2人の調和を意識した演奏ができるように、ペアに戻って話し合いや教え合いをして練習を進めさせる。特に、弦を弾いた後に指を隣の弦によりかけて止めるアポヤンド奏法と、弾いた後に指が隣の弦に触れないアル・アイレ奏法による音色の違いを知覚し、演奏する上で2つの奏法を場面によって使い分けて感受し、聴き手に伝わりやすい演奏表現ができるよう意識させたい。

中間発表では、周囲の生徒と演奏動画を撮影し合い、批評してよりよい演奏に仕上げられるようにしていく。実技テストは発表形式で実施し、演奏者には注目点を言わせてから演奏させ、その他の生徒は鑑賞させて講評用紙を記入させる。これにより、根拠をもった表現活動と批評活動ができるため、自己表現力と他者受容力の両方の育成からねらいにせまっていく。

### (3) 学習指導要領との関連について

#### ・A表現(2) 器楽

ア 器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫すること。

イ (イ) 曲想と楽器の音色や奏法との関わり

(ウ) 様々な表現形態による器楽表現の特徴

ウ (イ) 他者との調和を意識して演奏する技能

### 3 題材の目標

(1) 曲想とギターの色と奏法との関わり、様々な演奏形態によるアンサンブルの特徴について理解するとともに、創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、読譜の能力、曲にふさわしい奏法、他者との調和を意識して演奏する技能を身に付ける。〈知識及び技能〉

(2) 旋律、形式を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚と感受の関わりについて考え、自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫する。〈思考力、判断力、表現力等〉

(3) ギターの奏法、読譜力を身に付けることや自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫することに関心を持ち、主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組むとともに、音楽に対する感性を高める。〈学びに向かう力、人間性等〉

### 4 教材

(1) 「Tutti 音楽Ⅱ 改訂版」教育出版

「きらきら星～ギター二重奏」 作曲者 フランス民謡（作曲者不詳） 編曲者 佐藤 麻耶

### 5 学習指導要領の指導事項と〔共通事項〕ア・イの関連と具体的な学習活動

指導事項	A表現(2) 器楽 ア 器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫すること。 イ (イ) 曲想と楽器の音色や奏法との関わり (ウ) 様々な表現形態による器楽表現の特徴 ウ (イ) 他者との調和を意識して演奏する技能
〔共通事項〕ア	旋律、ギターに関すること（音色）
イ	形式、ギターに関すること（三部形式）
主な学習活動	・タブ譜の読譜、音名唱、ギターの練習 ・パート別の意見交換、ペアで話し合い・教え合い ・発表形式の実技テスト・批評活動

6 評価規準（題材の評価規準及び学習活動における具体的評価規準）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
題材の評価規準	<p><b>知</b>① 曲想とギターの音色と奏法との関わり、様々な演奏形態によるアンサンブルの特徴について理解している。</p> <p><b>技</b>① 創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、読譜の能力、形式、他者との調和を意識して演奏する技能を身に付けている。</p>	<p><b>思</b>① ギターの奏法と音色、楽曲の旋律を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚と感受の関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。</p>	<p><b>態</b>① ギターの奏法、読譜力を身に付けることや自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫することに関心をもち、主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。</p>

7 指導と評価の計画（全8時間）

時	○学習内容 ・主な学習活動	評価規準		
		知・技	思	態
1	<p>○ギターに関すること(タブ譜)、読譜の能力、ギターの音色と奏法との関わりを確認する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タブ譜を読み、弾いている音を指板表で探す</li> <li>・アポヤンド奏法、アル・アイレ奏法の音色の違いを確認する</li> </ul>	↓		
2	<p>○曲にふさわしい奏法、楽曲のリズム、形式について確認して練習する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音名唱</li> <li>・三部形式(A-B-A)であることを知り、楽曲全体の作りを理解する</li> <li>・参考動画の活用</li> </ul>			
3	<p>○1・2時で学習したことを確認して練習する</p> <p>○ギターの音色、旋律について確認する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音名唱</li> <li>・個人練習、パート決め、ペアで合わせ練習</li> <li>・参考動画の活用</li> <li>・演奏をよくするために各パートの役割・奏法の違いによる音色について、自分の意見をワークシートに記入する</li> </ul>	<p><b>技</b>① 観察</p> <p><b>知</b>① 器楽、記述</p>		↓
4 (本時)	<p>○話し合い活動をした後、練習する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音名唱、ギター奏法</li> <li>・パートごとに小グループを作って意見交換する</li> <li>・他者の意見を聞いた上で、自分の意見をまとめ直す</li> <li>・ペアに戻り、お互いの意見をまとめて、演奏の方向性を決める</li> <li>・個人・ペア練習</li> </ul>		<p><b>思</b>① 観察、記述</p>	
5	<p>○演奏に対する根拠をもって練習する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアで話し合い、教え合いをしながら練習する</li> </ul>	↓		↓

6	○中間発表、批評をする ・演奏動画を撮り、Classroom に提出する ・撮影してくれたペアと批評し合い、個人・ペア練習をする	[技] ①演奏聴取	[態] ①器楽、批評
7	○実技テストに向けての仕上げ、演奏に対する根拠をもって練習する ・先生からのアドバイスを受け、最終確認をする ・演奏計画を立てる ・実技テストに向けて、パートを選んだ理由と注目してほしいポイントをワークシートに記入する ・個人・ペア練習、仕上げ	[技] ①観察	[態] ①観察
8	○実技テストにて発表、批評活動、振り返り ・ペアごとに発表し、批評し合う ・発表時には、パートを選んだ理由と注目してほしいポイントを話してから演奏する ・ワークシートに振り返りをまとめる ・まとめたことを発表し合い、学習成果を共有する	[技] ②演奏聴取	[思] ①観察、記述

## 8 本時の学習指導（ 4 / 8 時）

### (1) 本時の目標

- ・ギター二重奏において、奏法による音色の違いを知覚し、2つの奏法（アポヤンド奏法、アル・アイレ奏法）を場面によって使い分けて感受し、聴き手に伝わりやすい演奏をするために、自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫する。

<思考力、判断力、表現力等>

### (2) 展開

○学習内容 ・主な学習活動	○指導上の留意点 ☆具体的評価規準（評価方法・手だて）
○本時の目標と学習内容を確認し、学習の見通しをもつ ・「高校生らしい演奏」とは何かを確認する	○前時までに学習した内容を思い出させて確認できるようにする ・演奏形態の違いによる印象の違いに注目させる
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;">             場面に合った音色を使い分けて、聴き手に伝わる演奏を考えよう           </div>	
○ギターを用意し、音名唱をする ・練習日誌に本時の目標を記入する ・ギターの調弦 ・ギターを全員で練習 ・音名唱をする ・ギターを全員で演奏する	○正確な音高を確認できるようによく聴くよう声かけする ○自分で決めた場面ごとの奏法を確認させる ○自分が弾いている音名を確認させる ○アポヤンド奏法、アル・アイレ奏法を場面によって使い分け、自分の中でイメージしている演奏ができるようにする

<p>○話し合い活動をする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パートⅠ・Ⅱに分かれて、3～4人グループを作り、ワークシートの内容を意見交換する</li> <li>・話し合いを受けて、自分の意見をまとめ直す</li> <li>・ペアに戻り、お互いの意見をまとめて、演奏の方向性を決めてワークシートと楽譜に記入する</li> </ul> <p>○練習する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主に合わせ練習をする</li> <li>・演奏がどのように変わったかをワークシートに記入させる</li> <li>・練習日誌に振り返りと次時の目標を記入する</li> </ul> <p>○授業の振り返りをする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめたことについて発表し合い、学習成果を共有する</li> </ul>	<p>○意見交換を通して、自他の意見のよいところや共通点を見つけて、自分の考えに確信をもたせたり、さらによりよい考えをもたせたりする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他者の意見はメモを取らせる</li> </ul> <p>○実際に音を鳴らしてみても、試行錯誤しながら方向性を打ち出せるようにする</p> <p>○記入につまずいている生徒を確認し、個別に支援する</p> <p>☆<b>思</b>①観察、記述</p> <p>&lt; Bと判断されるポイント &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての項目に記入できていて、各場面に応じた奏法の音色を選んで、ペアで演奏の方向性が打ち出せている</li> </ul> <p>&lt; Aと判断されるポイント &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各パートの旋律を意識して、より効果的な演奏表現になるよう考えられている</li> </ul> <p>&lt; Bに達しない生徒への支援・手立て &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どちらの奏法の音色が好みかを確認して、一言でもよいので記入させる</li> </ul> <p>○練習が円滑に進むよう支援する</p> <p>○本時の学習で知覚し感受したこと、ペアの演奏がよい方向に変容したことを振り返り、次時の学習に生かせるようにする</p>
--	---

## 9 ICT活用計画等

- ・参考音源、動画を Classroom にアップロードし、生徒の考察や練習に役立てる。
- ・演奏動画を Classroom に提出させて、進捗状況の確認やアドバイスをする。